

グリーン購入セミナー

～環境問題って誰のもの?～

東日本大震災後、事業者はもとより一般市民も環境に対する意識がより高くなり、省エネルギーや省資源に取り組む必要性が改めて認識されました。

2012年度グリーン購入大賞優秀賞を受賞された三信化工(株)や、同じく審査員奨励賞を受賞された(株)オイルプラントナトリの事例紹介を通じ、より質の高いグリーン購入を実践し、持続可能な社会実現に貢献するためセミナーを開催しました。

日 時：平成25年2月8日(金) 13:30～15:30

場 所：パレス宮城野 けやきの間3F (仙台市青葉区上杉3丁目3番1号)

参加者： 33名

主催：みやぎグリーン購入ネットワーク

共催：宮城県

<セミナープログラム>

開会挨拶 みやぎグリーン購入ネットワーク 代表幹事 猪股 宏

講演「『環境問題』って誰のもの?」

三信化工株式会社 営業本部

資源と環境の教育を考える会「エコが見える学校」事務局

海老原 誠治氏



資源と環境の教育を考える会の趣旨に賛同した15の企業・団体による「エコが見える学校」を2012年発起した。多くの企業・団体の垣根を越えて、子どもや若年層を対象として「伝え方」と「コミュニケーション」を重視して普及活動をしている。

三信化工では、食器について各種の環境・ニーズに特化し幅広い製品のラインナップを紹介。食器の一生をカーボンフットプリントで体感してもらう。「かばボンと一緒に食器の一生すごろく」ワークショップ、CFP(カーボンフットプリント)商品のみで一週間生活、CO2排出量を調べるなどの事例を紹介。

子どもや消費者に普及・浸透させ何をどのように伝えるか。

情報開示はCSR(企業の社会的責任)の必須項目である。現在、様々な環境ラベルがあるが、非常に沢山ありわかりにくくなっており、本当に消費者向けなのか。普及させたいのならもっと考えないといけない。

日本のモノづくりは「製品から仕様使い易さマニュアル(伝え方)までが繊細」と言われてきた。輸出する相手の国の言語で書かれており気遣いがある。しかし、いかに読みやすくするかが課題。環境対策も消費者目線で考えなければ成り立たないのではないか。

限りある資源を極力上手に使い、多くの人に上手に消費してもらい持続可能な社会となるべく、多くの子どもから消費者まで、実感し理解してもらう、世界に誇れる「伝え方」を模索してみませんか。



事例紹介

「てんぷら油のリサイクル事業を通しての環境教育と地域貢献」 株式会社オイルプラントナトリ 常務取締役 星野 豊氏

平成16年からバイオディーゼル燃料製造に取り組んでいる。県内の市町村や企業、地域の小学生から大学生まで、地域住民を対象に「てんぷら油のリサイクル」をテーマにした環境教育を実施し、資源の有効利用とCO2排出量の削減を行ってきた。自社のプラントで精製行程から出る二次廃棄物をすべて既存施設においてリサイクルしている。

3.11東日本大震災では、大打撃を受けたがBCP(事業継続計画)を機能させて、既存プラント施設を復旧し、事業を継続している。

・2011年度BCI(事業継続マネジメントの普及啓発を進めている国際的な非営利団体)より「最も効果的な回復をした企業」として最優秀賞受賞

・2012年度グリーン購入大賞審査員奨励賞を受賞 他多数



意見交換会

講演、事例紹介を受けて、様々な質疑応答がありました。一社で取り組むのではなく、時にはライバルと組んで多くの人と協働してやってみるのがよいのではないかと。



左) みやぎGPN事務局長 山岡 講子
右) みやぎGPN代表幹事 猪股 宏



左) 三信化(株) 海老原誠治氏
右) (株)オイルプラントナトリ 星野豊氏



